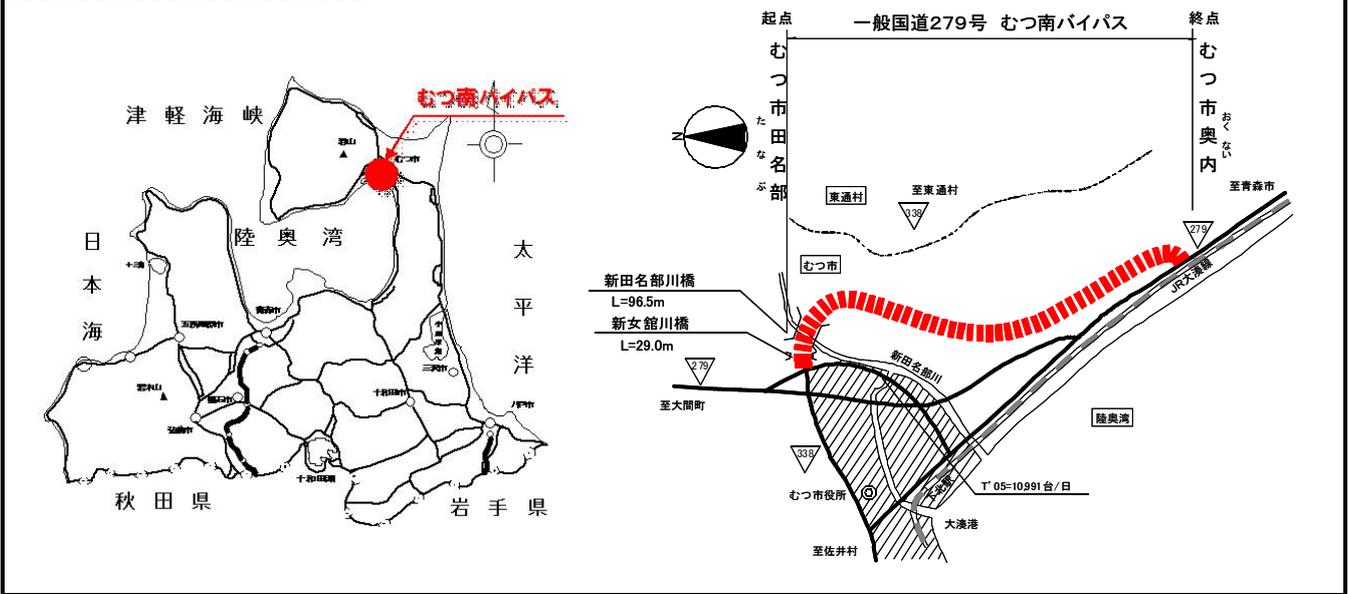


再評価結果（平成24年度事業継続箇所）

担当課：道路局国道・防災課
担当課長名：三浦 真紀

事業名：地域高規格道路 下北半島縦貫道路 一般国道279号 むつ南バイパス	事業区分：一般国道	事業主体：青森県 延長：8.7km				
起終点：自：青森県むつ市田名部 至：青森県むつ市奥内						
事業概要：下北半島縦貫道路は、下北地方生活圏の中心都市むつ市と東北縦貫自動車道八戸線 ^{はちのへ} を結ぶ延長約60kmの地域高規格道路である。むつ南バイパスは、むつ市を中心とする下北地域と県内主要都市とのアクセス性の改善、自然災害時における緊急輸送道路ネットワークや原子力関連施設が集積する下北地域における原子力防災体制の確立、さらには、むつ市内の交通混雑緩和や冬期間における交通環境の改善を目的とする事業である。						
H15年度事業化	H 年度都市計画決定 (H 年度変更)	H18年度用地着手	H19年度工事着手			
全体事業費	約122億円	事業進捗率	34%	供用済延長	0km	
計画交通量	6,580台/日					
費用対効果 分析結果	B/C (事業全体)	総費用 (残事業)/ (事業全体) 77/119億円		総便益 (残事業)/ (事業全体) 157/157億円		基準年 平成23年
	(残事業) 2.1	事業費：69/111億円 維持管理費：8.1/8.1億円		走行時間短縮便益：109/109億円 走行経費減少便益：31/31億円 交通事故減少便益：17/17億円		
感度分析の結果：残事業について感度分析を実施 【残事業】 交通量変動：B/C=2.1(交通量 +10%) B/C=2.0(交通量 -10%) 事業費変動：B/C=1.9(事業費 +10%) B/C=2.3(事業費 -10%) 事業期間変動：B/C=2.0(事業期間 +1年) B/C=2.1(事業期間 -1年)						
事業の効果等 ・自然災害時における緊急輸送道路ネットワークや原子力防災体制の確立 ・下北地域の観光振興をはじめ、地域経済の底上げや地域の活性化への効果 ・冬期間における交通環境の改善						
関係する地方公共団体等の意見 むつ南バイパスは、国道279号の交通混雑緩和や災害時の代替機能の確保等を図るとともに、地域間交流・連携の活性化に大きく寄与することが期待されており、むつ市長をはじめとする沿線市町村の首長等で構成される下北半島振興促進連絡協議会より、「下北半島縦貫道路の整備促進について」要望が出されている。 また、地元で働く女性により構成されている「下北未来塾」が生活者の視点から下北半島縦貫道路が下北地域の生活に必要な不可欠の社会資本であることを地域の声（熱意）として強く訴えている。						
事業評価監視委員会の意見 対応方針（案）どおり「継続」（附帯意見なし）						
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等 この事業の目的が失われるような道路交通状況の変化及び関連プロジェクト等の変更はない。						
事業の進捗状況、残事業の内容等 平成15年度に事業着手して、用地進捗率96%、事業進捗率34%である。						
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等 用地難航箇所の用地取得へ向け、現在事業認定手続の準備を進めており、平成24年度中に申請手続を終え、平成25年～平成26年の2ヶ年において土地の明け渡し手続を進める予定としている。						
施設の構造や工法の変更等 再生路盤材などの建設副産物の有効活用を積極的に進め、コスト縮減を図っている。						
対応方針：事業継続						
対応方針決定の理由 以上の状況を勘案すれば、当初から事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。						

事業概要図



※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。